

# ながい 議会だより

議会ホームページ



第209号  
令和6年11月1日発行  
神奈川県中井町議会



認知症講演会（井ノ口地区自治会連合会主催）

② 9月議会定例会  
町づくりを問う  
⑧ 一般質問7人が登壇

# 9月定例会

9月3日～13日

## 主な審議内容

一般質問	7名	10件
専決処分の承認		2件
条例改正		2件
町道路線の認定		1件
補正予算		4件
報告		2件
人事案件		3件
選挙管理委員等の選挙		
特別委員会の設置		1件
陳情審査報告		1件
委員会報告		3件
決議		2件

# 決算を認定

## 歳出 44億1,173万円

### 歳入

**問** 法人町民税額が一番多かった法人の、法人町民税総額に占める割合は。

**答** 法人町民税総額の62%を占めている。

**問** 地方消費税交付金の使途は。

**答** 社会保障費の財源に充てる形で、障がい者の自立支援事業費、小児医療費、国保、介護の繰出金などに充当した。

### 総務費

9億3346万円

**問** 町勢要覧作成委託料は、何部作成して、どう配布したか。

**答** A4判の冊子を1000部、概要版を1万部作成し、関係機関、公共施設、図書室、近隣市町村等に配布。

**問** 移住・定住推進事業補助金240万円の実績は。

**答** これまでの条件であったUターンに加え、Iターン、Jターンも対象にした補助制度で、1件当たり60万円が4件実施した。

**問** シティプロモーション事業費の横断幕と懸垂幕一枚の金額と枚数は。

**答** 町内11か所で開催し、一枚3万円から4万円程度である。

**問** オンデマンドバス実証運行の利用実績で、延べ利用人数と実利用人数は。

数と実利用人数は。  
**答** 延べ利用回数は6453件、実利用人数は210名程度である。

### 民生費

11億9747万円

**問** 地域生活支援事業と移動支援事業について、利用者からの要望は。

**答** 時間の延長や距離の延長はあるが事業所との話し合いで決めている。

**問** 社協の福祉有償運送の状況は。

**答** 令和4年度は1332人で、5年度が1397人で、コロナ以前の利用回数に近い。



### 衛生費

3億7665万円

**問** 健康づくりステーションの開館時間が平日の9時から5時で、学生や働いている方は利用できないのでは。

**答** 以前、休日に試験的に開館したが、利用状況はあまりよくなかった。

**問** 休日急患診療所運営費負担金が倍増しているが。

**答** 町民が小田原市の休日夜間や歯科の急患を利用した負担金で、決算額が増えている状況。

### 農林水産業費

1億6324万円

**問** 農業委員会サポートシステム移行業務委託の内容は。

**答** 農地台帳について、町独自のシステムから国のシステムへの移行にあたり、データの抽出や変換など移行作業に必要な業務を委託した。全額県補助金で行った。



# 令和5年度

## 歳入 47億7,466万円

### 商工費

1億2697万円

**問** 震生湖に駐車場を新設したが、散策路とのセットで整備が必要だが。

**答** 土地の所有者が個人なので、境界の関係で進められない。

**問** 地域通貨「きら」が利用できる店舗は限られているが、店舗の拡大について町はどう取り組むのか。

**答** 地域通貨は現在紙ベースであるが、電子通貨を含め使える事業者を増やさないと拡大できないので協力を求めていきたい。

**問** 地域通貨の使われなかった金額は。

**答** 使用期限が6か月間であり、約98%の換金率である。

**問** ふれあい農園のイノシシ対策として、2か所のふれあい農園に電気柵を設置しては。

**答** 電気柵で農園全体を囲むことがひとつの手段だが、草の管理がネックである。

### 土木費

8億3331万円

**問** 橋りょう修繕設計等委託料について点検での結果は。

**答** 22橋の点検を実施。19橋は健全な状況である。予防保全に向かうべきだといふところが3橋。

**問** 令和5年度から始まっている諏訪地区の区画整理事業は予定どおりに進んでいるか。また、地域住民からの声、課題等があったか。

**答** 現在造成を行っているが、全体として大きな遅れはない。声と課題については、月1回程度理事会を開催しているが特になし。

**問** 耐震診断、耐震改修が進まない理由は。

**答** 個人の負担が大きいことが理由と考える。補助内容については検討する。

### 消防費

2億117万円

**問** 危険ブロック塀の現況は。また所有者への説明は。

**答** 危険箇所は5件で、教育委員会と合同でパトロールしている。所有者に対し直接伺い、補助金の説明や改修を勧めている。

**問** 防災資機材購入費について毎年要望が多くなっている傾向だが、予算対応は。

**答** 要望全てには応えられないが、今後は検討する。

**問** 常備消防事務を小田原市消防に委託しているが、現在の課題は。

**答** 救急車の出勤時間と件数が増えていることが課題。

### 教育費

4億1602万円

**問** 育英修学金費について予算36万円に対し12万円の利用だが理由は。

**答** 応募が7名で認定が2名となっている。学業成績及び操行が良好であり、経済的に就学困難な学生に対し支援している。

**問** 学校環境整備事業での各学校改修工事内容は。

**答** 中村小学校は南校舎の改修工事設計委託、井ノ口小学校はグラウンドの観覧席の改修、中井中学校では校舎D棟の屋上や外壁の改修工事を実施。

**問** 文化財費で鬼王団三郎の墓が町管理だが、現状把握と管理は。

**答** 鬼王団三郎の墓は、今年度は草刈りが行っていないので早急に対応する。その他の町管理の場所も清掃、除草の対応をしていく。

### 国民健康保険特別会計

11億6386万円

**問** 国民健康保険の税收が6.2%のマイナスだが。

**答** 保険税の収入減は、前年度の平均比で121人減、被保険者の適用拡大、団塊の世代が後期高齢者医療に移行した影響。

**問** 保険給付費の療養諸費と高額医療費が増加した理由は。

**答** 入院が増えたこともあるが、医療技術の高度化に伴う医療費の増加も要因。

介護保険特別会計  
8億8967万円

後期高齢者医療事業特別会計  
1億7231万円

**問** 後期高齢者医療費の保険料の収納率は努力の成果が見られるが、特別徴収と普通徴収の内訳と未納の人数と理由は。

**答** 特別徴収が1550人で率は86・8%、普通徴収は235人で13・2%になっている。普通徴収の現年度分の未納人数は18人で、未納の理由は、生活保護の受給を開始したり、高齢によって収入が少なくなると、生活困窮しているため。

下水道事業会計  
6億8413万円

水道事業会計  
4億6207万円

にる  
算す  
対決  
**反対討論**  
おじりたかかず  
尾尻孝和議員

「恵まれた財政、町民のため生かして」

昨年度中井町一般会計の実質収支額は3億4309万円の赤字。

中井町の財政、実質収支の黒字が2017年以来7年間連続で続いています。結果、2023年度末に、町の貯金である基金現在高は30億円を超え、一方、町の借金である公債残額は2億6千万円まで減少。基金現在高は公債残額の11倍を超えました。

神奈川県内の市町村で、公債を上まわる基金を持っているのは中井町と清川村だけ。

2022年度末、県内市町村の加重平均で、公債残額は基金現在高の13倍であり、ほとんどの自治体が借金超過に苦しんでいます。

中井町の恵まれた財政、将来に備え、一定の基金積み立てをしながらも、納められた税金、収入は、町民福祉のため、より効果的に活用する工夫が求められます。

「中井町地域防災計画」が想定する建物被害による死者110人、計画が掲げる「死者

にる  
算す  
対決  
**賛成討論**  
いしわたしょうじ  
石渡正次議員

「町民の生活向上事業を評価」

令和5年度一般会計の実質単年度収支は5600万円の歳入超過となりました。また、経常収支比率は、前年度の77・9%から75・3%と2・6%減少しました。県内の市町村が硬直する中、中井町は比較的良好な状況にあると言えます。

職員の人材育成では、職員一人ひとりの能力を鑑み、計画的に研修を進めています。採用試験・各種研修・自己啓発等を行い前進が見られます。今後、庁外研修も含め様々な面での工夫を期待します。

定住促進・少子化対策事業では様々な事業を行い、移住や定住を促すだけでなく、家族や町民の温かい関係構築や安心して暮らせる町づくりに向けた有意義な取組を進めています。

小児医療費助成事業では、中学校卒業まで医療費を助成していたが、18歳まで拡大したことは、子どもたちの健やかな成長の支援と保護者の経済的負担を軽減することになり、評価できます。今後も適切な継続を望みます。

健康・体力づくりステーション事業では、町民の健康や体力の増進をねらっていますが、県の健康支援プログラムを活用したり新しい設備を導入したりすることによって、利用者が増えていることは評価できます。継続的に利用している町民も多く、使い方の改善が進めば更に幅広い人たちの利用が期待できます。

健康・体力づくりステーション事業では、町民の健康や体力の増進をねらっていますが、県の健康支援プログラムを活用したり新しい設備を導入したりすることによって、利用者が増えていることは評価できます。継続的に利用している町民も多く、使い方の改善が進めば更に幅広い人たちの利用が期待できます。

地域通貨事業は、町民の活動促進と町の経済活性化を図る事業ですが、子育て世代の支援として、18歳以下を対象に地域通貨を配付しました。各支援事業とも関連が深く評価できます。今後、遣い易い通貨をめざし、契約店舗を増やす・デジタル化を進める等が望まれます。

以上、町民の生活向上に向けた事業を着実に進めたことは大変評価されます。今後も経費を有効に使い適切に事業を遂行することを願い、一般会計歳入歳出決算に対し賛成討論とします。

以上、町民の生活向上に向けた事業を着実に進めたことは大変評価されます。今後も経費を有効に使い適切に事業を遂行することを願い、一般会計歳入歳出決算に対し賛成討論とします。

以上、町民の生活向上に向けた事業を着実に進めたことは大変評価されます。今後も経費を有効に使い適切に事業を遂行することを願い、一般会計歳入歳出決算に対し賛成討論とします。

以上、町民の生活向上に向けた事業を着実に進めたことは大変評価されます。今後も経費を有効に使い適切に事業を遂行することを願い、一般会計歳入歳出決算に対し賛成討論とします。

## 専決処分の承認

中井町と災害時における相互応援に関する協定書を締結している山形県戸沢村における本年7月25日からの豪雨災害に際し、支援関係経費の予算措置の必要性が生じたが、議会を招集する時間的余裕がないため、補正予算2件を専決処分した。

◎令和6年度中井町一般会計補正予算(第4号)

110万6千円の増額  
総額47億691万8千円

歳出では災害支援事業費を、歳入では繰越金を追加計上した。

◎令和6年度中井町一般会計補正予算(第5号)

254万6千円の増額  
総額47億946万4千円

歳出ではふるさと納税代理寄付に係る経費及び災害支援事業費を、歳入では災害支援ふるさと応援寄付金及び繰越金を追加計上した。

## 条例改正

◎中井町国民健康保険条例の一部を改正する条例

国民健康保険法の一部改正により、被保険者証が廃止されることから所要の改正を行った。

◎中井町消防団条例の一部を改正する条例

消防団員の任命年齢について、人員確保の観点から45歳未満としていた任命年齢の上限を撤廃した。

## 町道路線の認定

### 路線名

町道インター一色線

起点 井ノ口字諏訪下  
2928番9先  
終点 井ノ口字下境地  
113番6先

## 補正予算

◎令和6年度中井町一般会計補正予算(第6号)

2649万9千円の増額  
総額47億3596万3千円

総務費では、住基ネットの機器更改に伴う神奈川県村情報

システム共同事業組合への負担金を増額。

民生費では、老人保護措置に係る経費、保健福祉センターのトイレ改修に係る経費、介護保険特別会計事務費等繰入金を増額した。

衛生費では、出産後の母体の保護と育児支援のための宿泊型産後ケア事業に係る経費、町民の生活や事業所の経済活動を支援するために水道基本料金2か月分を免除するための水道事業会計への補助金を計上した。

土木費では、井ノ口地区の町道遠藤原幹線沿線の住宅開発と合わせて実施する町道改良工事に係る経費、厳島湿生公園のトイレ配管の修繕に係る経費、町営住宅のシロアリ防除に係る委託料を増額した。

教育費では、五所八幡宮祭礼の記録作成調査に係る経費、デジタル郷土資料館サイトの改良に係る経費を追加した。

◎令和6年度中井町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)  
28万3千円の増額

総額10億8648万5千円

歳出では、国民健康保険被保険者への加入者情報等の送付に係る費用として郵便料を増額し、歳入では、国庫支出金の社会保障・税番号制度システム整備費等補助金を増額することで収支の均衡を図った。

◎令和6年度中井町介護保険特別会計補正予算(第1号)

1424万8千円の増額  
9億6582万円

歳出では、前年度の保険給付費及び地域支援事業費、介護保険事業費補助金の実績による精算分として国庫支出金返納金及び支払基金交付金返納金の追加計上等を行った。

歳入では、支払基金交付金の追加計上と一般会計繰入金金の増額及び前年度繰越金を追加計上した。

◎令和6年度中井町水道事業会計補正予算(第1号)

580万8千円の増額  
3億1545万3千円

物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の充当事業として、2か月分の水道基本料金を免除するための補正を行った。

## 報告第4号

◎令和5年度中井町一般会計継続費精算報告について

町勢要覧作成業務について、令和5年度をもって継続年度が終了したことから、継続費の精算報告を受けた。

## 報告第5号

◎健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

一般会計及び特別会計、さらに一部事務組合などを含む町全体における財政状況を総合的に分析する目的で、財政の健全性に関する「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」の4つの指標と「公営企業の資金不足比率」について報告を受けた。

人事案件

監査委員の任期満了（令和6年9月24日）に伴い、次の方を委員として選任することに同意した。

小澤 勲氏（新任）

\*\*\*\*\*

教育委員会教育長、委員の任期満了（令和6年9月30日）に伴い、次の方を教育長及び委員として任命することに同意した。

教育長 岩本明人氏（再任）

委員 澁谷 彩氏（新任）

生涯学習施設建設等特別委員会の設置

町が計画する生涯学習施設事業の実施規模、期間、費用、効果など総合的に調査し、町とともに本事業の推進に向けて取り進む必要があることから特別委員会を設置した。

委員の定数 11名

（森議長を除く議員全員）

委員長 石渡正次氏

副委員長 関野達夫氏

選挙管理委員会

委員及び補充員の選挙

地方自治法第182条の規定により、選挙管理委員会委員及び同補充員の選挙を指名推薦で実施し、当選告知書を議長が発行した。

委員4名

松本 武田信治氏

井ノ口 大原 勉氏

井ノ口 赤松篤美氏

半分形 篠嶋美代子氏

同補充員4名

井ノ口 松田智子氏

井ノ口 權守 亨氏

境 相原正克氏

北田 田中 満氏

審査報告 文教民生常任委員会

本委員会に付託された陳情第3号「令和7年度における『障害者の医療費助成制度』についての陳情」は、継続審査となった。

陳情第4号「令和7年度における『透析患者の通院への助成』についての陳情」については、審査の結果、すでに町で助成を行っているとして不採択となった。

第5回臨時会

10月7日

審議内容

補正予算 1件

補正予算

◎令和6年度中井町一般会計補正予算（第7号）  
4263万9千円の追加  
総額47億7860万2千円に

農林水産業費及び土木費において、令和6年台風第10号による大雨の影響により、土砂流出などの被害を受けた農地の復旧への補助や、路肩の崩落などがあつた農道及び町道の復旧工事に係る経費を計上した。  
歳入では、歳出の補正に合わせ、財政調整基金繰入金を計上した。

決議

総務経済常任委員会

空き家対策推進に関する要望決議

中井町でも急速に増え続ける空き家の問題は非常に深刻であり、至る所で顕在化している。空き家の放置は、建物の老朽化や景観の悪化を招き、防犯上のリスクや住民の生活環境の悪化も引き起こすため、地域の魅力や安全性を低下させている。こうした問題に対処するためには、空き家の適切な管理や利活用を促進する政策の強化が必要である。  
まず、空き家の所有者に対する意識改革を促し、空き家の適切な管理を行うよう啓発することが重要である。また、税制の見直しや補助金の提供など、空き家対策を推進するための支援策も重要であり、さらには地域住民や自治体、企業が協力して、空き家の問題を共有し、コミュニティ全体で解決策を模索することが求められている。  
以上のことから、空き家バンクの推進や「空家等対策計画」の早期策定と充実、空き家を減らすための予防策の強化を強く要望する。

記

- 1 空き家の利活用促進  
空き家の有効活用を推進するため、空き家バンクへの登録を積極的に奨励・促進するとともに、併せて県の宅建協会や不動産協会への登録を行う。
- 2 空き家管理適正化の強化  
町は令和6年度より「空家等対策計画」の策定を進めているが、空き家にならないための予防対策として、書き込み式の「(仮称)我が家の将来計画ノート」を作成し、全戸に配布する。
- 3 新たな補助金制度の創設  
空き家バンクへの登録時に、片付け費用の補助や空き家解体に伴う費用に掛かる補助金制度を創設する。

以上、決議する。  
令和6年9月13日

中井町長 戸村 裕司 殿

中井町議会

# 決議

文教民生  
常任委員会

## 学校教育に係る費用の支援に関する要望決議

中井町の人口減少と少子化は深刻な状況にある。危機感を持ち子育て環境をより一層充実させるよう、新たな子育て支援施策へと積極的に打ち出していくことが必須である。

文部科学省の調査によれば、通学に必要な経費である学校教育費は、公立小学校で年間平均約7万円、また、塾や習い事などの学校外活動費にも大きな差が見られ、公立小学校に通う子どもで年間平均約2.5万円となっている。

近年における日本の経済状況からしても、各家庭における教育費負担は重く「教育格差」が生じていることも社会問題の一つとなっている。

委員会調査によれば、本町の就学援助金受給者の割合は、令和5年度小学生では15.3%であり、増加傾向にある。

特に、小学校に通う児童が使用している「ランドセル」は、新入学用品の中でも高額で、入学準備をする保護者にとって大きな経済的負担となっている。日本鞆協会ランドセル工業会が令和6年に行ったアンケート調査では、購入したランドセルの平均価格は5万9千円余りで、その金額は年々上昇しているとのことである。以上の現状を踏まえ、当委員会としては、町の全ての子どもたちが健やかに成長することを切に願ひ下記提言とする。

記

「ランドセル」と同程度の機能や耐久性を備えた「通学用リュックサック」を町から次年度以降の新入学児童へ無償配付し、保護者やその家族の経済的負担の軽減を図る。

以上、決議する。

令和6年9月13日

中井町長 戸村 裕司 殿

中井町議会

## 審議した議案等と審議結果

### 令和6年 第3回定例会

提出者	議案名	議員名	議決日	審議結果	曾我尚人	武井一紀	関野達夫	相原晃一	古宮祐二	多田 勲	石渡正次	加藤久美	尾尻孝和	井上泰弘	岸光男
町長	専決処分の承認を求めることについて (令和6年度中井町一般会計補正予算(第4号))		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	専決処分の承認を求めることについて (令和6年度中井町一般会計補正予算(第5号))		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町国民健康保険条例の一部を改正する条例		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○
町長	中井町消防団条例の一部を改正する条例		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	町道路線の認定について		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	令和6年度中井町一般会計補正予算(第6号)		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	令和6年度中井町国民健康保険特別会計補正予算(第1号)		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	令和6年度中井町介護保険特別会計補正予算(第1号)		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	令和6年度中井町水道事業会計補正予算(第1号)		9/4	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	決算の認定について (令和5年度中井町一般会計歳入歳出決算)		9/13	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○
町長	決算の認定について (令和5年度中井町国民健康保険特別会計歳入歳出決算)		9/13	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○
町長	決算の認定について (令和5年度中井町介護保険特別会計歳入歳出決算)		9/13	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	決算の認定について (令和5年度中井町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算)		9/13	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	令和5年度中井町下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について		9/13	可決認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	令和5年度中井町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について		9/13	可決認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町監査委員の選任について		9/13	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町長	中井町教育委員会教育長の任命について		9/13	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○
町長	中井町教育委員会委員の任命について		9/13	同意	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
委員会	生涯学習施設建設等特別委員会の設置について		9/13	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
委員会	空き家対策推進に関する要望決議について		9/13	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
委員会	学校教育に係る費用の支援に関する要望決議について		9/13	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

### 令和6年 第5回臨時会

町長	令和6年度中井町一般会計補正予算(第7号)	10/7	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
----	-----------------------	------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

※ 森丈嘉議長は採決に加わりません。○は賛成、●は反対を表しています。

一般質問



# 町民のための公共施設のあり方を問う



かとう くみ  
加藤久美 議員

## 町長 優先順位を示しながら実施

町の公共施設の多くが老朽化し、人口減少、少子高齢化が進み、税収減が予測される中で、将来的に公共施設の維持管理や、利用の変化に対し適正化を図ることは大変重要な課題だ。そのため、公共施設等総合管理計画、公共施設長寿命化計画が示され、計画に基づき各事業が実施されている。

しかし、それは町行政の中長期的な視点で財政運営をチェクすることが主な目的であるため、町民ありきの計画ではない。公共施設が、町民の権利を保障し安全かつ住民の福祉を増進する目的を持ち得ているのかを確認する。

**問** 中村下会館の廃止に当たり、投票所をどのようにしていくのか。

**答** 第1投票区と第4投票区を合区し、役場庁舎の利用を図ることが望ましい。役場庁舎を使用する方向で調整をしている。

**問** 投票所が減ることによってポスター掲示板は何箇所となるか。

**答** 現在の29箇所から23箇所に変更となる。

### 神奈川県内13町村の町営・公営住宅の設置戸数

町村名	戸数	町村名	戸数
葉山町	37戸	大井町	22戸
寒川町	県営	松田町	21戸
愛川町	173戸	山北町	134戸
清川村	27戸	開成町	40戸
大磯町	24戸	箱根町	161戸
二宮町	県営	真鶴町	27戸
中井町	5戸	湯河原町	48戸

**問** 公営住宅とは。

**答** 憲法第25条、生存権の保障の趣旨にのっとり、公営住宅法に基づき、国及び地方公共団体が協力して住宅に困窮する低所得者に対して低廉な家賃で供給されているもの。

**問** 今後、町営住宅は譲渡・廃止とし、その後は民間の借上げ等の公営住宅とするということだが、公営住宅法や町の条例を満たす民間の住宅が実際にあるのか。

**答** 規定を遵守した中で募集していく。具体的な検討を進めたい。

**問** 借上住宅が実現できるのか調査もされずに計画が示さ

### 県西地域10町の「公共施設の数」と「延床面積」

町名	公共施設の数	延床面積	町名	公共施設の数	延床面積
中井町	30施設	34,140㎡	箱根町	97施設	108,000㎡
大井町	51施設	52,250㎡	真鶴町	45施設	41,147㎡
松田町	85施設	50,000㎡	湯河原町	70施設	71,070㎡
山北町	—	52,919㎡	大磯町	68施設	70,104㎡
開成町	40施設	43,435㎡	二宮町	66施設	69,418㎡

※各町村で公表されているデータを取りまとめたもので、公表年度は各町村で異なります。

れているが。

**答** 町営住宅建築設置後42年経過し、目標使用年数までには18年ある。法定点検や利用者からの声を聞き、住みやすい環境を整えることを毎年考えている。

**問** 町営住宅は土砂災害警戒区域内にある。急傾斜地崩壊防止対策事業工事の完成時期は。

**答** おおむね5年程度で工事が完了。

**問** 条例に基づき、立地的な安全性、老朽化、高齢者や障がい者などに適用するための改善

や改修、これを突き詰めると建て替えたと思うが、大きなコストがかかるので、民間借上げが一番だと考えているのではないかと。つまり、優先されたのは財政面であったと考えられる。本来、憲法第25条に基づいて、町民の暮らしやすさ、そして、人権保障を町が行っていく考えがあるべきではないか。

**答** 縮充という視点を今回加えている。賢く収縮するまちづくりを推進している。

**問** 公共施設と町の将来を考えるのであれば、一番最初に検討されるべきは教育施設であると理解しながらも、進めることができない理由は。

**答** 公共施設等総合管理計画に基づいて取組をしている。

**問** 学校統廃合等の検討は。

**答** 学校教育のあり方に基づき、余剰教室、学校施設の適正規模、老朽化状況、それらに伴う費用負担の増大を総合的に勘案しながら、児童・生徒数を注視し、学校施設のあり方について別途検討していく。給食センターも同様。

一般質問



# 災害時等における 学校体育館等の環境整備を



せきの たつお  
関野 達夫 議員

## 町長 小中学校体育館の空調設備設置等を検討

近年の地球温暖化による著しい夏の気温上昇は、日常生活を脅かす厳しい状況になっている。気候変動により短時間に集中的な豪雨となり、河川の氾濫や土砂災害の危険性も非常に高まっている。直近では、大規模地震の危険性が多く報道され、自然災害がいつどこで起きてもおかしくない状況である。災害時に必要となる避難所は、公共施設が担う大きな役割のひとつで、町民の安全安心を守るための準備が重要である。

**問** 災害関連死を減少させる対策は。  
**答** 避難者の健康面や精神面でのケアは大変重要であり、保健師と専門職による健康相談など、きめ細かい対応を行う。

**問** 夏季における災害関連死を減少させるための環境改善策として、指定避難所となる小中学校体育館に空調設備設置の考えは。  
**答** 小中学校体育館の環境改善策として、国・県等の補助

金を活用しながら、導入に向けて検討していく。

**問** 指定避難所への空調設備設置に併せて、災害時の停電時対応に欠かせない非常電源の設置は。  
**答** 空調設備設置と非常電源確保はセットで検討していきたい。

**問** 農村環境改善センターと井ノ口公民館の大規模災害時の役割は。  
**答** 支援物資の保管場所として井ノ口公民館を、遺体の安置所として農村環境改善センターを地域防災計画の中

で位置づけている。

**問** 小中学校体育館の長寿命化対策の改修計画をどのように考えているか。  
**答** 学校施設は、児童生徒が安全安心かつ快適な教育環境を確保するため、常に健全な状態に保つ必要がある。施設の老朽化や機能低下が生じる前に予防保全の考え方で計画的に進めていきたい。

**問** 教育ビジョンの中で、将来の学校の在り方の検討は。  
**答** 組織等を立ち上げ、町民の意識を調査しながら、総合計画に整合する形で進めて

いきたい。

**問** いざという時のために、地域に根差した中村下会館のような地域集会施設、近隣住民が誰でも自由に利用できる公共施設が必要と思うが。  
**答** 地域住民の交流や生活環境維持など災害時の共助は、住みよいまちづくりを進める上で中心的な役割を担っていると考える。

**問** 中村下会館の跡地利用は、そこに何が必要か、地域と共に議論してもらいたい。  
**答** 中村下会館の跡地利用を行うことは約束している。

**問** 中村下会館の跡地利用について、町がしっかり考えていることを、地域に分かるよう示してもらいたい。  
**答** 人と活動の器としての施設づくりが、これからの新規の公共建築には求められてくる。この地域に必要なものはあると思うが、総合的な取組の中で本心に良い施設をつくっていくことを約束する。



中村小学校体育館に開設された避難所

一般質問



# 「終活」への行政としての支援は

他 2 問



おじり たかかず  
尾 尻 孝 和 議員

## 町長 エンディングノートの普及啓発、講座を予定

**問** エンディングノートには、介護や医療、財産のことなど、自ら書きながら考えていただく内容になっている。

この取組、行政にとつて義務となる事業ではない。しかし、地方自治体の目的である住民の福祉の向上にとつて大きな可能性を広げていくのでは。

**答** エンディングノートについて、それを普及啓発していく中で、講演会等も含めて取り組みたい。

介護・医療、さらに終末の取組というものは一体的に進めていくものと思っている。

### みどりに飲み込まれる 中井町、対応は

**問** 緑豊かな中井町と言えは聞こえはいいが、現実には、自然の繁殖力に飲み込まれつつある中井町があるのでは。30年前にはいなかったイノシシが今、中井町を闊歩しているのは、その反映。人口減少と高齢化が進む中で、住民の努力では対応し切れなくなっている

場所と、自然の繁殖力に競り負けている場所は、行政が年に2回草刈りしていたところを、場所によってはあと1回増やそうではないか。幹線町道だけでなく、必要なところにも草刈りの範囲を広げようではないか、そのことを提案したい。

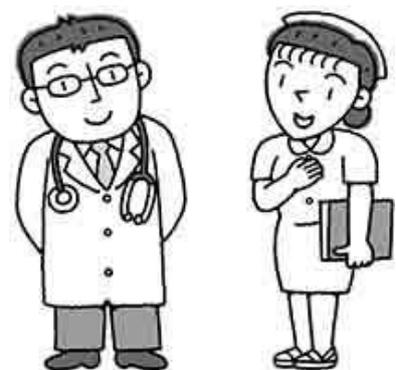
**答** 繁茂が広がっている部分など必要に応じて町でも予算確保に努めていきたい。町が担うべきところは町が担ってきたい。

**問** たとえ過疎化が進行しようとも、そこに住んで生活している町民に、水道、道路、電気などのインフラは絶対に確保し続けなければならない。費用対効果の考えを持ち込み、切り捨てるようなことはないと思うが。

**答** 切り捨てるという考えは持っていない。

### 健康保険証廃止で 影響と対応は

**問** 町では、直近のマイナ



**答** つた対応が必要か。  
**答** 資格確認書を交付され、医療機関を受診できる。

**問** 資格確認書の形状は。  
**答** 現状の被保険者証と同じ。

バーカードの保有率、マイナ保険証の保有率、そして、その利用率は。

**答** マイナンバーカードの保有枚数率は71・9%。マイナ保険証は、国民健康保険では登録率が56・0%、利用率が12・6%。後期高齢者医療は登録率が49・5%、利用率が7・4%。

**問** 健康保険証の有効期限が近くなった時点で、マイナンバーカードを持っていない方、マイナバーカードを持っていない方が、保険証機能をつける

**問** 資格確認書は現在の健康保険証のように、対象となる方に今後も自動的に送られてくる。それならば、現行の健康保険証を残せば済む話で、政府のマイナ保険証ごり押しが健康保険手続を複雑にし、国民に混乱と負担をもたらしている。

建前では、マイナンバーカードを持つ持たないはその人の自由な判断、こう言いながら健康保険制度を使ってマイナンバーカードの保有をこり押ししようとするその政策の破綻では。

**答** 国民皆保険という制度の下、この任意取得のマイナンバーカードを保険証として活用するところ、いろいろな意見が出ている。反対されている方も非常に多いと認識している。

一般質問



# ふるさと納税の拡大推進を



た だ い さ お  
多 田 勲 議員

## 町長 自治体間競争という中で真剣に取り組む

ふるさと納税制度は地方振興に大きな成果を上げてきた。各自治体が指定基準を満たしながら寄附額を確保していくことは、財政運営の観点から非常に重要である。当町においても、ふるさと納税制度の適切な運用が求められており、現状の問題点を洗い出し、今後の施策を明確にすることが不可欠と考える。

**問** 現在の返礼品を見直し、増やす考えは。

**答** 返礼品の数については常に増やしていく方針で、事業者等と協議しながら、できるだけ商品登録ができるよう取り組んでいる。

**問** 町が返礼品業者に機材の購入やパッケージ改良に対する助成を行う制度を創設する考えは。

**答** 今ある事業者が生産している品物で登録できてないものもあり、まずはこちらをできるだけ登録につなげていきたい。

**問** 寄附金の使い道はどのような経過で決まるのか。

**答** 事業内容や財源構成などを勘案し、寄附者の意向に沿うように、財政部局で調整して決定している。



**問** 寄附金の使途を明確にすることで多くの共感を得られる事業に対して寄附を募る場合、基金の創設が有効ではないか。

**答** 事業の中で、基金を設けたほうが効果的に集められるものがあれば、基金の活用もしてみたい。

**問** 企業版ふるさと納税について、町長自らトップセールスを行う考えは。

**答** 町に由来のある企業などのつながりを大事にしなが、ら広げていきたい。

**問** 財源確保策として、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングや企業版ふるさと納税を実施する考えは。

**答** クラウドファンディングは、これまで実施していないが、今後の政策立案等の際に財源確保の一案として検討していく。企業版ふるさと納税は受入れ実績はないが、今後、ホームページ等を活用し周知を行っていく。

**問** クラウドファンディングを活用し、町民や関連団体からプロジェクトを募り、町が支援している文化財保護や自治会館建設などに充てたらどうか。

**答** 導入に当たり、プロジェクトを成功させるためのストーリーづくりなどの制度設計

が重要と考えている。課題を整理するために、先行自治体の事例などを調査していきたい。

**問** 東名高速中井パーキングエリアにふるさと納税自販機を設置すれば、納税効果が期待できる。検討したらどうか。

**答** 事例などから調査研究を進めたい。

**問** ふるさと納税をしてくれた寄附者との関係人口創出の考えは。

**答** 町ホームページの掲載により、当町に興味を持っていただけるよう、また当町に訪れていただけるよう、工夫をしながら取り組んでいく。

**問** 寄附者の傾向など、具体的なデータに関係人口施策に活用できているか。

**答** ある程度のデータはあるが、活用までには至っていない。

一般質問



# 町内にある指定文化財の保存と活用は

他1問



たけい かずのり  
武井 一紀 議員

## 町長 町民の文化の向上に資する

町内には、町指定文化財22件、県指定天然記念物1件、国指定記念物1件の24件の文化財と町史跡文化財等86件が指定されている。町の貴重な財産であり次世代に継承しなければならぬ宝であり、保存環境の安全性はもちろんのこと、放火・盗難・地震・水害にも留意する必要がある。また近年では、文化財を地域振興への活用をしている自治体も多く、観光、まちづくり等に利用されている。

**問** 個人所有の文化財、百足丸は、鎌倉時代のすばらしい刀である。この時代の刀は技術の伝承がなく、現代では再現出来なと言われている。期間限定での展示や模造刀レプリカ作製や、写真集、動画を作り、多くの人に鑑賞してもらう考えは。

**答** 特別展やキャラクター活用だが、町の真価を日本と世界に位置づけると施政方針等で明確にうたっている。手つかずの文化財等をしっかり位置づけしていく。

**問** 半分形の山車の装飾品で、過去に使われていた御簾の金具があり、徳川将軍家と思われる



半分形山車の御簾金具

る葵の家紋が入り、馬の毛を染めた飾りが付いている。彫刻と同じに大切に木箱に保管されてきている。徳川家との結びつきを想像させる物である。詳しく調べてもらいたい。

**答** 五所八幡宮例大祭については、歴史あるいは文化的特徴について学術的に調査して、どのような経緯があったか明らかにしていきたい。今回、補正予算に関係費用を計上した。

**問** 町指定文化財物件補助金だが、1万5千円という金額は当時では妥当であったが、昭和平成から令和になり、消費税も導入され、見直す必要があると考えるが。

**答** 昭和52年に補助要綱を制定して以来、見直しが行われていない。補助金額の効果、在り方を改めて検討していきたい。

**問** 毎年、中村地区では、五所八幡宮例大祭が行われ、町の重要文化財の山車、五所宮囃子、鷲の舞が披露される。かながわまつり50選にも選ばれているが、神奈川県指定文化財を受けられないか。

**答** 町長の政策ユニバース、公約においても、歴史文化を形にして伝えることを明言している。五所八幡宮例大祭の無形文化財を中長期的に道筋をつけると位置づけている。実現に向けて推進していきたい。

### 役場南側の遊休農地の利用は

役場南側は大町と言われ、大きな水田が広がり稲作が盛んに行われている。しかし近年では、遊休農地が増加し、生産者の高齢化や後継者不足により、これからさらに増加していき、水田以外の新たな利用を考へる必要がある。大町東側の水田に低水温の

地下水を利用し、ニジマスの養殖池をつくり、管理釣り場を考へる。水辺をつくることにより、バーベキュー場やキャンプ場にも適する。また収穫体験型農園施設と組み合わせ、さらに集客が見込めると思っているので、体験型の観光利用を提案する。



町役場南側の水田

**問** 大町の水田では、本年作付けを行っていない水田も含め遊休農地と考えられる面積は。  
**答** 農地は約8万4000㎡で遊休農地は約2万㎡になっている。

※御簾 宮殿や神殿などに用いるすだれ。竹のひごを編み、平絹や綾などで縁をとった目の細かいもの。

一般質問



# 生涯学習施設建設の今後は



そが なおと  
曾我 尚人 議員

## 町長 ランドマーク化を目指し空間整備を図る

**問** 生涯学習施設の完成までの流れは。

**答** わいがやサロンで町民意見を取り入れ、基本構想・基本計画を策定し、その後パブリックコメントを募集する。これらを踏まえた中で設計事業者をプロポーザル方式により選定する。

令和7年度は実施計画、用地買収、造成工事等を行い、翌年の建設工事着手を目指す。

**問** 建設費について3月議会では20億円程度と言われていたが、現在は。

**答** 資材費、人件費の高騰により現段階で幾らとはいえない。下がることはなく上昇傾向にある。早期に着手できるよう、費用の総額を視野に入れ検討していきたい。

**問** 平成29年、建設費や財政状況により生涯学習施設建設を中止されたが、今回も建設費高騰で中止になることは。

**答** 農村環境改善センターの

現況を踏まえ、建設を判断した。建設費高騰による中止はない。

**問** 委託料1058万8千円の内訳は。

**答** 生涯学習施設整備基本構想・基本計画策定及び設計事業



6月14日に開催された第1回目のわいがやサロン

者選定の公募支援を一括してひとつの業者に依頼した。

これまで開催しているワークショップの開催支援。基本構想や基本計画の策定を受けたパブリックコメントの実施支援。わいがやサロンについてのSNSやnoteというような広報などの策定過程のコミュニケーション発信の支援など。

**問** 随意契約でのコンサル決定だが、経緯と評価は。

**答** 海外との比較など最近の図書館事情に精通し、住民が求めるトレンドを十分理解している。横浜や小田原の図書館外部委員も務めていて、行政が蓄えていない知見を十分持っていることから単独随意契約で業者選定をした。

**問** 現在の図書室は、飲食禁止携帯禁止、会話禁止、井ノ口公民館は土足も禁止になっている。検討しては。

**答** 今の図書室には今にあった運用があると思っている。しかし利用者からのニーズには応えていく姿勢は必要と考える。

**問** 現在の図書室は閉館時間が17時で、働いている人や学生は利用できない。インターネット予約で時間外でも本を借りられる宅配ボックスのようなものを設置しては。

**答** 興味のある発想だが、実現の可能性など検討課題とした。

**問** 返却ボックスを改善センターの他、井ノ口公民館や境コミュニティセンターにも設置しては。

**答** 地域の利便性が高まり導入しやすいと思う。



わいがやタイムでの話し合い

**問** 生涯学習施設建設は、みんなで盛り上げるからこそ、何十年も愛される施設になると思う。もっと丁寧に町民の意見を聞く必要はあると考えるが。

**答** 今回の参加型まちづくりにおいて、皆さんに参加してもらいたいのがまず第一。頂いた意見を通しながら、話し合い、よりよいものにする。そこに失望などないよう努力しているが、なお一層強めていきたい。

一般質問



# 観光振興から、地域の「稼ぐ力」の実現を



あいはら こういち  
相原 晃一 議員

## 町長 地域資源を有効活用し情報発信を続ける

観光におけるその地域の魅力は、歴史や自然など多様な資源を融合させることで一層輝きを放ち、多くの人々を引きつける力をもつ。地域の魅力を高め、にぎわいと活気に満ちた環境を整えることは移住促進に繋がる。

**問** 現在の観光振興策をどのように評価しているか。

**答** 令和3年度より調査研究を進めた。眺望がよく自然環境が豊かで、車でのアクセス性にすぐれていることから、今ある地域資源に磨きをかけ、魅力向上につながる事業に取り組んできた。

**問** 本町の観光の指針と、それに立ち向かっていく町の積極性が欲しいと考える。今後の観光振興計画をどのように考えているか。

**答** 観光資源というよりは地域資源と捉えており、それをPRしながら、中井町を知って、来ていただくような取組を今後も継続していきたい。

**問** 中井中央公園、震生湖など

に町内外の人々が訪れたいような環境整備は。

**答** 震生湖周辺では散策路や駐車場の整備、中井中央公園では多目的グラウンド南側の芝生化や遊びの広場の大型遊具のリニューアル、厳島湿生公園の木道の改修などを実施した。

**問** 厳島湿生公園では、車椅子の利用ができるよう求められており、インクルーシブの観点からも、チップ舗装などによる路面整備が必要ではないか。

**答** 整備の必要性は感じているので予算要求をしていきたい。

**問** 観光事業を推進していくために他市町や県などの関係機関との連携は。

**答** 1市5町や商工会、バス及び鉄道会社等で組織された「あしがら観光協会」がある。協会では、足柄上地区の観光地の紹介や宣伝、観光客の誘致などを行っている。また秦野市、二宮・大磯町と一緒にイベント交流等による地域活性化を広域で取り組んでいる。

**問** オンデマンドバスを活用した観光振興について、どのように考えているか。

**答** オンデマンドバスについては、生活のための足で、観光という視点とは少し違うことで運営している。

**問** 観光振興による地域の「稼ぐ力」の実現は。

**答** まずは、地域資源を有効活用し、中井町に訪れていただけ

るよう各種イベントや収穫体験事業等を通じて情報発信を続けることが大事である。また、民間企業においても、ブランド商品のPRなども行っている。

**問** インバウンド需要を受け、小田原・箱根に流れている観光客を中井に呼び込む施策を考える必要があるのでは。

**答** 中井町には宿泊施設がなく、外国人の旅行者の集客は難しい。町の魅力の向上には施設の充実が必要不可欠だと考えている。



里やま直売所

**問** 里やま直売所は土日祝日の営業である。購買者により良いサービスの提供のために、通年において販売できる体制にしたかどうか。

**答** 平日も営業となると、公園への来客数も少なく、販売に関する人件費等の兼ね合いもあり、大変難しい。

# ぎかいトピックス

## 8月2日(金) 中村地区自治会長と意見交換会

議会広聴委員会では、議会基本条例に基づく意見交換を中村地区の自治会長と行いました。また、いただいた意見を町と共有し、町長から回答をいただきました。詳しくは、議会HPをご覧ください。

### テーマ①

#### 「地域活性化について」の 主な意見

- 声 境地区を考えると若い人が町を出ている。地域の行事ができない。若い人を呼び戻すには、調整区域が多く住む場所がない。交通も不便で若い人が住みにくい。地域の活性化を図ることを考えたいが難しい。
- 声 自治会長が中村上は少ないうえ、高齢単身世帯も多く、イベントを設定しても集まってくれない。
- 声 空き家を利用しやすい取組を進めてもらいたい。
- 声 町独自で家が建てられるよう規制緩和を県と協議しては。県に市街化区

- 声 域を増やすことを訴えては。
- 声 中井町を都市計画区域外(白地)にしたら、土地利用がしやすくなるのでは。
- 声 オンデマンドバスの予約手続きは、高齢者には面倒である。買い物も不便なので、移動販売はできないか。宅配補助(社協で実施)もあるが、買い物代行は社協で実施しているか?
- 声 オンデマンドバスがよく総合グラウンドや五所八幡宮前、中央公園に停まっているが無駄なので、2台運行している1台を循環型にできないか。
- 声 オンデマンドバスはまず利用することが大事である。ライドシェア規制を取り払い、町独自で運行させたら。(責任は町でとる)
- 声 現在は、子ども・高齢者は手厚い補助がある。
- 声 自治会ではお祭りの分担金が多く困っている。
- 声 自治会に入っていて良いことを増やすにはどのようなすべきなのか。負担を減らす工夫が必要だ。
- 声 コメリの前の歩道に防犯灯、街路灯が欲しい。
- 声 半分形、大久保は自治会館などの地代負担があり、毎年相当な金額を支払っている。
- 声 外国人住民が増えて、言葉が通じないことからゴミ出しも含め、多々問題もある。これから自治会のあり方がどうあるべきか検討しなければなら

### テーマ②

#### 「その他」の主な意見

- 声 避難場所の再検討、資材配給についてのチェック更新などが必要。防災のプロ(危機管理専門員)の目から見て防災備蓄品などをチェックしてもらいたい。
- 声 自治会館などが避難所となることに備え、発電機・蓄電器などを設置してほしい。高齢者の避難を考えてもらいたい。備蓄食料なども含め充実させたい。
- 声 定期的に河床整理を県に要望してもらいたい。
- 声 鳥獣被害が年々増えている。電気柵補助金は一部ではなく全額補助にしてもらいたい。
- 声 大雨時に流木が橋桁に引つ掛かり堤防化して水があふれる危険がある。木により見通しも悪く犯罪の危険性が増す。(大泉寺屋根の銅板窃盗もあった。) 河川内の木等を伐採するよう県に依頼してほしい。
- 声 消防団員の団員不足。消防車が普通免許で運転できない。
- 声 中央公園から境に行く道路や歩道に木の枝が出ている。枯れ枝が落ちてきて危ない。土地所有者に、整理するよう働きかけてほしい。



農村環境改善センターで開催された意見交換会

- 声 横断歩道やセンターラインの白線が消えている。
  - 声 境コミュニティセンターの草刈り、落ち葉清掃の頻度を確認してほしい。自治会では手に負えない。
  - 声 所有者が行った荒廃農地の整備の費用の補助ができないか。
- 今後も皆様から頂いたご意見を真摯に受け止め、議会活動に活かしてまいります。引き続き、地域の活性化に向けて議会として積極的に取り組んでまいります。

# 委員会から報告します

## 議会運営委員会

所管事務の調査・研究テーマ「議会活性化改革に関する調査・検討について」のうち議会のICT化について9月議会定例会で報告を行いました。また、10月2日に委員会もを行い、引き続き調査・研究を行っています。

## 総務経済常任委員会

8月9日、9月6日に委員会を開催し、所管事務の研究テーマ「空き家対策について」は9月議会定例会で決議を提出することを求め、議決されました（決議文は6ページに掲載）。また、「人口減少対策について」は継続審査とすることとし、10月4日に委員会を行いました。

## 文教民生常任委員会

8月7日、9月5日に委員会を開催し、所管事務の研究テーマ「学校教育に係る費用の支援について」は9月議会定例会で決議を提出することを求め、議決されました（決議文は7ページに掲載）。また、引き続き調査・研究することとし、10月2日に委員会を行いました。

## 生涯学習施設建設等特別委員会

9月議会定例会で本特別委員会の設置について議決しました。9月9日、10月7日にそれぞれ委員会を、10月24日に協議会を開催しました。

# 議会を傍聴しませんか

湘南ケーブルテレビ（102チャンネル）生放送  
※放送内容は後日インターネット上でも視聴できます。  
詳しくは町ホームページをご確認ください。

今回の定例会は

**12月3日（火）** 開会予定

議会ホームページ（中井町ホームページ）はこちら →



## 編集後記

吹く風に冬の到来を感じるこのごろとなりました。いかがお過ごしでしょうか。  
前号より表紙の写真を表示の掲載を可とし、「町民の声」欄に顔写真を入れ親しみやすくしてみました。  
また、文字を大きくし、写真を多く取り入れ、本文中難しい行政用語などを分かりやすくするなど、町民の皆様読みやすい「議会だより」にしています。今後ともより一層「議会だより」をご愛読いただきますようお願いいたします。  
現在議会では、分厚い予算・決算書が、他市町同様にペーパーレス化できるよう頑張っています。

（古宮）

### 議会だより編集委員

- |      |       |    |       |
|------|-------|----|-------|
| 委員長  | 古宮 祐二 | 委員 | 武井 一紀 |
| 副委員長 | 相原 晃一 | 委員 | 関野 達夫 |
| 委員   | 我 尚人  |    |       |

## 町民の声

なかざわ よしこ  
中澤 佳子さん（北田）



中井町に引っ越して9年、主人と2匹の猫と共に穏やかに暮らしています。田舎すぎず都会すぎないこの町は、便利とは言えませんが、決して不便でもなく、ちょうど良い環境がとてお気に入りです。  
先日、弟夫婦が遊びに来た際、朝の鳥のさえずりに驚いていました。  
普段は当たり前と感じていたこの自然豊かな環境が、実はとても贅沢なものだと改めて気づかされました。  
井町を知ってもらうため、町外の人に魅力を伝える広報活動をみんなで進められたらいいですね。